



ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602  
8月の休館日：4月・11月・18月・25月

9日(土)・10日(日)

## 文ブラで遊ぼう！夏の2日間！ サマーフェスティバル

☆ダンスフェスティバル、歌声喫茶、ガラス工芸、夏の思い出コンサート、スカイウォッチャー演奏会、文化プラザ施設見学会 など  
☆詳しくは、「広報ひこね」6月1日号13ページをご覧ください。

8月10日(日) 13:30～

## お楽しみコンサート 夏の思い出コンサート

☆劇団四季、東京ディズニーランド出身のダンサーによる夢のコラボが実現。ピアノ、チェロのアレンジを加え、子どもたちのおなじみの曲を紹介。  
☆出演：アンサンブルグループ「FOMU」  
【鑑賞無料】

10月5日(日) 15:00～

## 財彦根市文化体育振興事業団設立30周年記念 大阪シンフォニカー交響楽団 演奏会



矢崎彦太郎 (指揮) 緑川まり (ソプラノ) 中鉢 聡 (テノール)

指定 S席 4,000円、A席 3,000円、B席 1,500円  
【好評発売中】

10月15日(水) 18:30～

## 倉木麻衣 待望の彦根ライブ決定！ Mai Kuraki Live Tour 2008

指定 6,000円  
【8月17日(日)発売開始】  
※窓口販売9:00～、電話予約11:00～  
※発売初日は、一人4枚まで  
※窓口で完売した場合は、電話予約は行いません。

11月22日(土) 14:00～/18:00～ 2回公演

## 宝塚星組公演

☆演目：宝塚ロマン「外伝 ベルサイユのばらーナール編ー」、ロマンティックレビュー「ネオ・ダンディズム! III」 一男の美学ー  
☆出演：安蘭けい、遠野あすか ほか  
指定 1階席 6,500円、2階席 5,500円  
【8月31日(日)発売開始】  
※発売初日は電話による予約販売のみ(一人4枚まで)  
※発売初日終了後、残席がある場合は、9月2日(火)以降に窓口販売も行います。

☎：託児サービスがあります(公演日の1週間前まで要予約) ㊚：終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスがあります。(有料)

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520  
8月の休館日はありません。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

7月26日(土)～9月1日(月)

## 直弼発見! 巻の2

### 「開国の時代と彦根藩」

開国へと向かう時流のなか、西洋の文物を学んで軍事変革を遂げ、黒船渡来に対応した彦根藩の姿を紹介いたします。  
▲ペリー浦賀来航図【重要文化財】



市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294  
8月の休館日：5火・12火・19火・26火

23日(土) 10:00～11:00

## トランポピクス教室

講師 田附孝子さん (日本トランポピクス協会 公認インストラクター)  
場所 ひこね市文化プラザ 第1リハーサル室  
対象 小学生以上(家族での参加を歓迎します)  
定員 25人(先着順)  
申込方法 前日までに、市民体育センター窓口で申し込んでください。  
参加費 1人500円  
持ち物 運動のできる服装、体育館シューズ

## ひこね市民大学講座

- 第2講 「日本の政治経済のゆくえ」  
9月7日(日) 宮崎哲弥さん(評論家・コメンテーター)
- 第3講 「環境と健康」  
10月4日(土) 北野大さん(工学博士・明治大学教授)

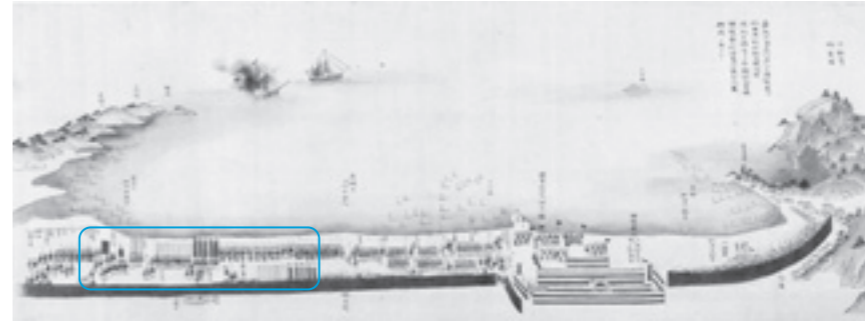
☆時間：14:00～(2講座とも)  
☆料金：全席自由 4,000円【好評発売中】  
※1講座だけの購入はできません。  
※未就学児の入場はお断りします。  
※要約筆記は、各講演日の10日前までに申し込んでください。

## みずほ文化センター

8月2日(土) 15:00～

## 菅原洋一&英介 父と子のコンサート

☆地元特別出演：コールほなみ  
指揮：高木充江  
自由 3,000円(当日3,500円) 【好評発売中】



▲ペリー浦賀来航図【重要文化財】  
▲整列する彦根藩士の一部  
(上の写真の青線で囲んだ部分)

嘉永6年(1853)6月9日、ペリーが浦賀(神奈川県)に上陸します。アメリカ大統領フィルモアの国書をたずさえ、日本に開国を求めたためです。このとき、海岸に近づいたペリーの目には、浜を埋め尽くす赤い装束の兵士たちの姿が映ったに違いありません。  
彼らは、「井伊の赤備え」で知られる彦根藩士です。浦賀近くの浜に作られた応接所周辺の海岸に、約2千人の彦根藩士が整然と並びました。砂浜に人の壁を築いたかのごとく、上陸地を警固したのです。

このときの様子を、ペリー浦賀来航図に描かれています(写真)。横縞の幔幕を張った応接所の脇を先頭に、彦根藩兵が整列しています。まずは幕府役人と連絡交渉を担当する城使役、次に鉄砲を持った足軽隊、さらに部隊の中核を担う知行取藩士が並び、鎗隊、朱地の幟旗、部隊長と続きます。  
このころ、欧米諸国のアジア進出が盛んとなっていました。日本近海にも、これらの国々の船が頻りに姿を現わし、日本に開国を求めます。そこで幕府は、江戸湾(現在の東京湾)の入口にあたる三浦半島(神奈川県)・房総半島(千葉県)の沿岸警備を、有力譜代の4藩に任せます。その一つに彦根藩井伊家がありました。

警固するにあたり、陣羽織を着用するよう指示が出されています。井伊家の軍装では、陣羽織は茜色(暗めの赤)と定まっております。絵図でも、足軽や従者以外は、皆赤い上着を着用した姿で描かれています。  
では、なぜ浦賀から遠く離れた彦根の人々が、護衛の任に就いたのでしょう。  
それは、ペリー来航からさかのぼること6年、弘化4年(1847)に、彦根藩はこの地の警備を任せられ、藩士を派遣していたためです。  
このころ、欧米諸国のアジア進出が盛んとなっていました。日本近海にも、これらの国々の船が頻りに姿を現わし、日本に開国を求めます。そこで幕府は、江戸湾(現在の東京湾)の入口にあたる三浦半島(神奈川県)・房総半島(千葉県)の沿岸警備を、有力譜代の4藩に任せます。その一つに彦根藩井伊家がありました。

# ペリーを迎えた「井伊の赤備え」

# とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



名の中でも最強の軍事力を誇っていた。要衝の地である彦根を治め、徳川の天下を守るために軍備を調えるのがその役割でした。

このような家柄ゆえ、彦根藩に任せられた場所は、江戸湾に入る最前線にあたる三浦半島の先端でした。この重要地を警固するにあたり、彦根藩では藩士や足軽、船頭などあわせて約3千5百人を現地に派遣しています。また、西洋の軍艦に対抗できるように、西洋の科学技術も学んで大砲の建造にも取り組みました。

彦根藩兵が絵図のように整列したのは、ペリー上陸当日の明け方のことです。彼らは前夜に宿所を出発して、夜明けとともに警備に就きました。徳川幕府の軍事力を象徴する「井伊の赤備え」。その威容は、ペリーにもインパクトを与えたことでしょう。(彦根城博物館学芸員 野田浩子)

「ペリー浦賀来航図」は、シリーズ「直弼発見!」巻の二「開国の時代と彦根藩」で、9月1日(月)まで展示しています(期間中無休)。